

(音楽科)

E S Dの視点に立った学習をどのように組み立てるのかを考える

―たてわり班による「チャイムづくり」―

大阪市立北津守小学校

1. 研究の目的

平成 32 年に全面実施にされる学習指導要領から「習得した学力（資質・能力）は生きて働くもの」「持続可能な社会づくりを担う人材育成」という視点はE S Dで求める能力・態度と深く関連づけられている。本校では、2 年間の音楽科教育の学びの集大成として、音楽科で育成する資質・能力がどのように貢献するのかを分析する必要があると考えた。

2. 研究の背景

本校では平成 27 年から 29 年まで音楽科の研究を行った。音楽科研究の経緯は以下の通りである。

(1) 児童の学びの背景

平成 26 年度までは、「言語活動」を中心とした国語科や算数科の研究に取り組んできた。その成果は学習調査の結果にも表れてはきたが、「人前で自分の思いや考えをうまく表現することに恥ずかしがってしまう」という表現の視点で課題が見られた。それに加え、平成 27 年度は創立 90 周年で記念式典にて歌唱を披露することも予定されていたこともきっかけとなり、表現する楽しさを感じられる学びを重点とすることになった。

(2) 教員の研究の背景

本校の教職員に「平成 26 年度末までに経験したことがある研究教科・領域」についてのアンケートを実施した結果、国語科・算数科・体育科を中心とした研究が多く、その他の教科・領域についての研究は少ないことが明らかとなった。そこで児童の学びの背景、教員の教科指導力向上も見据えて「音楽科」の研究に取り組むことになった。

3. 本実践の目的

研究の集大成、新学習指導要領、E S Dの視点を軸として「身のまわりに音楽があり、生活と密着して暮らしに潤いを与える持続可能な社会を創造することができるという経験」をするために、『世界に一つだけのチャイムをつくろう』という題材を掲げてすすめていく。本実践は、音楽づくりとして学校のチャイムを創作する。E S Dの視点を取り入れた本実践のポイントは、学習によって自分たちの学校生活を潤い豊かなものするという動機と達成の喜び、異学年交流によるたてわり班での対話的・協働的な学び、音楽が生活に役立つことの理解、の3点である。

4. 実践の方法

E S Dの視点に立った学習として、授業において次の6点を重視した。

(1) 生活のためにチャイムをつくるという動機付け

チャイムをつくらなければならないと子どもが自ら意識するための場面を設定した。従前使用していたチャイムをブザー音に変え1週間ほど継続すると子ども達から「早く戻してほしい」「音を変えてほしい」と声が挙がってきた。そのタイミングで教員が創作したチャイムの音楽を聴かせることで、「自分たちでチャイムをつくることのできるのだな」ということに気付かせる。

(2) つくりたいチャイムのイメージ創出

どのようなチャイムをつくりたいのかをイメージしやすくするために、たてわり班ごとに担当の時間を設定した。それぞれの時間のイメージをふくらませて「こんなチャイムをつくりたい」と創作意欲を高める。

(3) 既習事項の活用

従前の学びから習得したものを活用する必要があるために、教員が創作した5つのチャイムに既習事項を取り入れ、音楽づくりに必要な手立てとなるように提示した。

(4) 質の高いチャイムの追求と試行錯誤

質の高い音楽（本実践ではチャイム）をつくるために、①指導目標の設定(単元・各学年別)②学年ごとの評価規準の設定③指導計画の明確化④毎時間の指導計画作成と打ち合わせを全教員で確認しながら進め、どの班の児童も同じ授業が受けられるようにした。

(5) 対話的な協働学習

本実践では、たてわり班での学びを進めていく。6年生がリーダーとなって、他の学年へ教え、意見をまとめる。それぞれの学年が身に付けた知識・技能を生かすことができ、教員による手立ての提示をして進めていく。毎時間の打ち合わせでは、使用楽器の精選や、イメージ通りに仕上げるためにもとの旋律をどのように工夫していくのか等、教員による教材研究を行った。また、教員は全員が学習に参加できるよう担当班のリーダーに事前に学習内容や進め方などの打ち合わせをした。

(6) 教科学習としての学力保証

各学年の目標と評価規準を設定し、それに沿った学習計画を立てて質の高いチャイムをつくることで、教科として習得しなければならない資質・能力をより高められるようにした。

5. 研究の成果

実践後に児童対象にアンケートを行った結果は以下の通りである。自分達がつくったチャイムが流れる喜びや、これからも受け継がれていく喜びを実感できたことが持続可能な社会の担い手を育成することに効果があると分析する。

- ・自分たちがつくったチャイムが毎日流れて嬉しい。
- ・音楽の勉強が楽しいなと思った。
- ・どうやってチャイムがつくられたのかを伝えていきたい。
- ・たてわり班の皆と勉強ができてよかった。
- ・チャイムにこめられた思いを伝えていってほしい
- ・卒業してからもずっと流れてほしい。
- ・卒業する学校に何かを残すことができ嬉しかった。

また、実践後に入学した1年生は、チャイムの旋律を覚えて鍵盤ハーモニカで演奏したり、友だちと口ずさみながら、教室へ戻ってきたりするなどの反応が見られた。

6. 今後に向けて

(1) 基礎的学力定着

活用や行動のための「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」といった資質・能力の育成を目指して、新学習指導要領をしっかりと読み取り、今後の指導にあたる。

(2) ESDの視点に立った指導

今後も明確な目標（ESDの獲得から期待する力や姿）をもって単元・題材、教科をこえて一人一人の成長を涵養し、実践を重ねていく意識を教員が持ち続ける。